

# 成果報告書

慶應義塾大学 総合政策学部 3年 新田莉生

## 1. 発表した研究

タイトル: Supporting Life with Reading: 9 Patterns from A Pattern Language for Creative Reading

著者: Rio Nitta, Wataru Murakami, Yasushi Watanabe, Takashi Iba

## 2. 学会名

• Pattern Languages of Programs Conference 2018 (以下 PLoP)

→ <https://www.hillside.net/plop/2018/>

• Portland Urban Architecture Research Lab)10 Year Conference (以下 PUARL)

→ <https://blogs.uoregon.edu/puarl2018/>

## 3. 活動日程

期間: 2018年10月22日～2018年10月31日

場所: University of Oregon Portland 70 NW Couch St. Portland, OR 97209

## 4. 活動目的

本活動の目的は、アメリカで開催される PLoP にて学会発表を行うことである。発表論文は、ファーストオーサーである「Supporting Life with Reading: 9 Patterns from A Pattern Language for Creative Reading」及びセカンドオーサーである「Design Patterns for Pattern Illustrating」である。主に前者で発表する読書のコツのパターン・ランゲージが、日本国外でも通用するのかを実証する。また、読書のコツのパターン・ランゲージそのものについてフィードバックを受けることによって、パターンの質自体の向上と、今後新たなパターン・ランゲージを作成する際にも活かすことができる学びを得る。加えて、PLoP終了後、同場所で開催されるPUARLにも参加し、「Workshop for Designing a Living Workshop using the Wholeness Egg Approach」を実施する。

## 5. 活動内容およびフィードバック

ファーストオーサーである「Supporting Life with Reading: 9 Patterns from A Pattern Language for Creative Reading」およびセカンドオーサーである「Design Patterns for Pattern Illustrating」は、主に作成したパターンの内容自体が、それぞれ Writers' workshop で議論された(図1、図

2)。読書のコツのパターン・ランゲージに関しては、このパターン・ランゲージの活用者をさらに明確にする必要があるという意見や、どのような種類の本に使えるパターン・ランゲージなのかも明示しなければ、活用者の混乱を招くのではないか、という意見もあった。パターンそのものに関する意見の中で、最も発見的だったのは、“Book the Date(本との先約)”のパターン名は、“Date the book”の方がいいのではないかという、ドイツ人の方の意見だった。他にも、このパターン・ランゲージの質をより向上する上でかなり重要なコメントや、今後新たなパターン・ランゲージを作成する上で活かすことのできる発想や観点を得ることができた。



(図1)



(図2)

## 6. 今後の展望

読書のコツのパターン・ランゲージに関しては、Writers' workshop で得たフィードバックを元に、個々のパターンの質をさらに向上させる。また、現在子ども向けの読書のコツのパターン・ランゲージを作成するプロジェクトが動いており、その作成過程でも、今回の学会参加で得たフィードバックをもとに、より効果的なパターン・ランゲージの作成を目指す。論文に関しては、本学会で得られた論文へのフィードバックをもとにブラッシュアップし、最終版を来年1月15日までに提出し、提出後 ACM に登録される。

## 7. 謝辞

今回、国際学会に参加し、このようにたくさんの成果と発見を得ることができたのは、慶應義塾大学湘南藤沢学会殿の研究助成金制度による支援をいただいたからであり、心より感謝申し上げます。